

平成18年度事業状況報告

府域の良好な自然環境の保全及び市街地の緑化を推進し、みどり豊かで快適な環境づくりに寄与するため、次の事業を行った。

I. 府域に残された良好な自然環境や里山等の保全

1 貴重な自然環境の保全

府域に残された貴重な自然環境の保全と回復を図るため、協会の登録ボランティア「みどりすと」をはじめ、多くの府民、企業社員のボランティアの参加や大阪府立大学等の研究機関の協力を得て次の活動を行った。

- ・ 貴重な自然環境の保全に関する活動 和泉葛城山ブナ林ほか6カ所
- ・ 貴重な自然林の保全契約 本山寺大阪府自然環境保全地域ほか5カ所

※活動地、契約地位置は別添資料－2参照

(1) 和泉葛城山ブナ林保全整備事業

和泉葛城山のブナ林は、日本のブナ分布の南限圏にあり、標高も低いため、温暖化等の環境変化の影響を受けやすく、大阪府が取得した周辺森林(バッファゾーン)との一体的な保全が必要である。

このため、学識経験者等で構成するブナ林保護増殖検討委員会の助言を得ながら、ブナ林が自然状態で天然林としての生態を維持できるようブナ林造成に取り組んだ。

結実調査に基づき、ブナの種子を採集して、大阪府環境農林水産総合研究所で播種及び育苗を行い、次世代のブナ苗木を養生した。また、地元のボランティア団体「ブナ愛樹クラブ」や企業の社員ボランティアなど広く府民の協力を得ながら保全活動を実施した。

(保全面積 56 ha)

- ・ ブナ種子の採集(9月～12月)及び播種(1月)
平成19年6月1日現在 357本が生育中
- ・ バッファゾーンのブナ(276本)及びイヌブナ(26本)の樹高と胸高直径を計測
- ・ ブナ造林木の保育(下刈り) 4.36 ha
- ・ ブナ造林木の生長量調査(苗高、幹直径) 3,138本
- ・ 自然生えブナ若木の育成(被圧木の巻き枯らし) 100本
- ・ ブナ造林木のDNA調査及び気候変動による昆虫相の経年変化調査のための昆虫リスト作成

・地元ボランティアによる周辺森林の整備	24回	参加	312名
・企業ボランティアによる下刈り（10月14日(土)）	1回	参加	99名
・巡視管理等	巡視員	4名	延べ 134日
・ブナ林保護増殖検討委員会の運営			
・ブナ林自然観察ハイキング（10月21日(土)）	1回	参加	65名
・ブナ造林技術学習会（3月21日(水・祝)）	1回	参加	88名

（2）三草山ゼフィルスの森保全整備事業

能勢町三草山は、日本に生息するミドリシジミ蝶（ゼフィルス）25種のうち10種が生息し、なかでも、ヒロオビミドリシジミは日本の分布の東限になっていることから、当協会が生息主要区域に地上権を設定し、ヒロオビミドリシジミの幼虫の餌であるナラガシワ林の保全のための事業を実施した。

また、蝶類の生息調査とDNA解析による調査を基に、山火事等による壊滅的な打撃から守るため、三草山周辺地域でのゼフィルスの森拡大に向けた候補地として、遺伝的交流が保たれている「竜王山」、及び三草山の次にゼフィルスの種数が多い「深山」を選定した。

（保全面積 14 ha）

・防火帯の刈り払い、蝶類の生息環境に合わせた林床の整理	9 ha
・萌芽更新によるナラガシワ林の試験的更新	0.25 ha
・不法採取等の巡視	地元ボランティア活動により実施
・車両乗入規制柵の設置	2基
・蝶類の調査	大阪府立大学等の研究と連携

（里山管理と蝶類群集の多様性との関連性）

ゼフィルス産卵調査（11月13日(月)）	1回	参加	19名
ナラガシワ（45年生25m）	ヒロオビミドリシジミ	128	卵
	ウラジロミドリシジミ	14	卵
	ダイセンシジミ	3	卵
	ミズイロオナガシジミ	3	卵

・ボランティアによる自然生え苗の保育、笹の刈り払い、除伐整理	4回	参加	49名
・ゼフィルス観察会の開催（6月18日(日)）	1回	参加	77名

(3) 自然環境保全地域等の保全事業

すぐれた自然環境として大阪府が指定した自然環境保全地域と緑地環境保全地域、及びこれに準ずる地域の保全を行った。

(ア) 社寺の貴重な自然林（大阪府自然環境保全地域）の保全契約

社寺に残るすぐれた自然林を地域の極相林として維持するため、5カ所の大阪府自然環境保全地域について、管理者との保全契約に基づき支援した。

(保全面積 38 ha)

- | | | |
|---|-------|--------|
| ・ 本山寺自然環境保全地域 | (高槻市 | 14 ha) |
| ・ 意賀美神社 <small>おがみ</small> 自然環境保全地域 | (岸和田市 | 1 ha) |
| ・ 美具久留御魂神社 <small>みぐるみたま</small> 自然環境保全地域 | (富田林市 | 2 ha) |
| ・ 若山神社自然環境保全地域 | (島本町 | 11 ha) |
| ・ 妙見山自然環境保全地域 | (能勢町 | 10 ha) |

(イ) 能勢町地黄湿地の保全

トキソウ、サギソウ、モウセンゴケ等の湿地植物やハッチョウトンボやモリアオガエル等の貴重な野生動植物が生息する能勢町地黄の湧水湿地を保全するため、地元やボランティアの協力を得て、集水域森林の保全作業を行った。また、陸地化を防止するためススキなどの抜きとり作業や湿地の地形測量及び立入防止柵の改修を行った。特定外来生物に指定されているウシガエルの駆除に取り組んだ。

(保全面積 18 ha)

- ・ 立ち入り防止柵の改修 (74m)
- ・ 湿地の地形測量
- ・ 特定外来生物ウシガエルの駆除
- ・ ボランティアによる侵入した樹木やススキの掘取り 7回 参加 40名

(ウ) 和泉市信太山惣ヶ池湿地の保全

市街地間近に多様な生態系を保っている和泉市信太山惣ヶ池の湿地において、保全管理マニュアルに基づき、市民ボランティアの参加により、ササ刈りや湿地植物の種多様性を高めるための耕起などの保全作業を実施した。また、「信太の森ふるさと館」を通じて地元の活動団体と湿地の生きものなどの観覧会を開催した。ボランティア養成講座 (20名) で、湿地の植物を学べるエリアとして活用した。

(保全面積 3 ha)

- ・乾燥化につながるネザサの刈り払い、帰化植物の除去、湿地植物の多様性を高める耕起作業、水路の整備等 6回 参加 53名
- ・湿地植物観察会（9月17日(日)） 1回 参加 48名

(エ) 八尾水辺エコアップ活動

希少な淡水魚ニッポンバラタナゴの大阪府内での絶滅を回避するため、野池の環境を整備し、バラタナゴの産卵宿主となるドブガイ及びニッポンバラタナゴの生育調査を行った。また、周辺森林を多様な生きものが生息できる里山林として整備するなど、地元の協力とボランティアの参加を得て保全活動を行った。

ニッポンバラタナゴは順調に増殖しており、今年度初めてドブガイの繁殖が確認できた。

(保全池面積 0.1 ha)

- ・ヘドロ除去、ドブガイの生育環境の改善のための土砂補給、水路の維持管理、ため池周囲の草刈り、周辺森林の整備 14回 参加 106名
- ・ドブガイ、ニッポンバラタナゴの調査
(ニッポンバラタナゴ 605尾を確認 前年は 313尾)
- ・ドビ流し^(※1)による池の浄化作業と生きもの調査、水質調査の実施
※1 池の水を堆積有機物と一緒に流すため底樋を抜く作業
- ・全国タナゴサミット（八尾市：1月13日(土)）に参加

(オ) 大和葛城山カタクリ群生地の保全

府内で唯一のカタクリ群生地において、周辺からの藪の侵入を防止するためのサ刈り等の環境整備を実施した。自主活動グループ「大和葛城山の自然を大切にする会」も結成され、ギフチョウの卵調査やユリ類の増殖の他、奈良県側での保全作業なども行った。

また、大阪府立大学と協力しながら、カタクリと一体的な生態系を構成するギフチョウの産卵状況や食草であるミヤコアオイの調査も実施した。

(保全面積 3 ha)

- ・侵入するササ類の除去、無立木地の草刈り、林内整理、ボランティアによる調査（カタクリの分布、ギフチョウ産卵調査）等 4回 参加 60名
- ・ミヤコアオイの分布調査 大阪府立大学の研究との連係
(ミヤコアオイの分布と生育環境の評価)

- ・全国ギフチョウ・ヒメギフチョウ保全シンポジウム（岐阜県岐阜市：1月20日（土））に参加

2 里山の保全活動

多様な生きものが生育できる環境と良好な景観の創出を目的として、手入れされなくなった雑木林や人工林を再生するため、（社）国土緑化推進機構や（財）三菱UFJ環境財団から助成を受けて、ボランティアの参加による間伐、下刈り、つる切り等の森林保育作業を8カ所で行った。

また、里山保全活動を地域に根づいた持続性のある活動とするため、ボランティアによる自主的な活動が進むよう、各活動地でのグループづくりを進めた。

- ・地元市町村、自治会等が参加する協議会等で計画を立案又は協議して実施しているもの（3カ所）

茨木市 車作の森

和泉市 和泉の国の森づくり

泉佐野市 いずみの森

- ・自主活動グループが組織化されている活動地（4カ所）

島本町 大沢の森

島本森のクラブ

茨木市 車作の森

車作里山倶楽部

能勢町 歌垣の森

能勢のギフチョウを守る会

泉佐野市いずみの森

いずみの森ボランティアの会

（貝塚市蓄原の森

グループづくりを呼びかけ中）

- ・各活動地のテーマ及び実施状況は以下の通り

①能勢町歌垣の森 （放置された栗林の再生とギフチョウの保護：2ha）

6回 参加 124名

②箕面市外院の森 （都市近郊の放置林の整備・再生：3ha）

21回 参加 420名

③茨木市車作の森 （多様な動植物を育む里山の再生：40ha）

30回 参加 585名

④島本町大沢の森、水無瀬水源の森等 （山村と都市の交流：18ha）

50回 参加 620名

⑤貝塚市蓄原の森 （台風被害森林の復旧：11ha）

（財）UFJ環境財団から里山保全活動に対する助成を受けて実施

4回 参加 134名

⑥泉佐野市いずみの森（ボランティアによる森づくり西日本拠点：31ha）

（社）国土緑化推進機構から活動助成を受けて実施

19回 参加 416 名

⑦泉南市堀河の森（企業ボランティアによる森づくり：11ha）

5回 参加 342 名

⑧和泉の国の森づくり（地域と都市住民の協同による森づくり：7ha）

16回 参加 235 名

3 ビオトープづくりの推進

子どもたちが生きものに触れ、実践的な活動ができる環境教育の場を創出するために、「ローソン緑の募金」からの寄附金を活用した学校環境緑化モデル事業として、学校ビオトープづくりを支援した。

・学校環境緑化モデル事業（2カ所）

寝屋川市立点野小学校

太子町立磯長小学校

Ⅱ. ボランティア活動の育成

府民運動として、里山保全活動等への参加をよびかけるため、地域におけるボランティアを育成するとともに、当協会登録ボランティアである「みどりすと」の技能向上を図るための講座を実施した。

また、当協会事業地内で、「みどりすと」を中心に結成されたボランティアグループによる自主的な活動を支援した。

このほか、緑化行事等でのクラフト指導や大阪府緑の少年団連盟の活動に対する助成を行った。

1 ボランティア研修会の開催等

当協会活動地周辺でのボランティアの発掘及びその育成を行うため、ボランティア活動に必要な技能や知識を身につけるための「みどりの地域ボランティアスクール」を開催すると共に、登録ボランティアのための「みどりすと講座」を開催した。また、国土緑化推進機構や能勢町が実施する講座を受託した。

(1) みどりの地域ボランティアスクールの開催

地域のボランティアを育成するため、「いずみの森」や「信太山惣ヶ池湿地」を活用しながら、里山保全の基礎知識（里山や植物の生態等に関する座学）、保全活動の実習、自然観察実習等を組み入れた基礎講座を実施した。

- ・平成18年5月開講、年 13 回実施
- ・受講者 21 名（通年）

(2) みどりすと講座

会員や「みどりすと」の技量向上とボランティアリーダー養成のため、里山保全活動時の安全確保や事故時の応急措置についての研修会を実施した。

- ・平成18年12月から2回実施

(3) 中央ボランティア研修会への参加募集

(社)国土緑化推進機構の実施する研修に大阪府下のボランティア団体に参加をよびかけ、団体間の交流と意見交換を進めた。

- ・第12回グリーンカレッジ

平成19年3月8日～11日 東京都八王子市

森林ボランティアリーダー、コーディネーターの養成

大阪から 1名参加

- ・グリーンボランティア研修
市民ボランティア指導者養成のための通信研修
大阪から 6名参加
- ・近畿地区グリーンボランティア研修
平成19年2月16日～18日 三重県津市
森林ボランティア活動の養成講座
大阪から 3名参加

(4) 能勢町里山管理リーダー養成講座

能勢町が総合計画の中で里山の保全と管理を位置づけ、その担い手となる里山管理リーダーを養成するための講座を平成16年度から受託している。同町は里山の自然環境が良く残されており、町外からの参加も多い。

- ・平成18年8月～平成19年2月 6回開催
- ・里山に関する基礎知識、ボランティア活動での安全講習、森林計画のたて方、自然観察等
- ・受講者 21名(通年)

2 みどりのボランティア活動の支援

当協会事業地におけるボランティアの自主的な活動を促進するため、当該地で活動する「みどりすと」を中心に結成されたボランティアグループに対して、活動に必要な経費を助成した。

<活動地名>

- ・和泉葛城山ブナ林(岸和田市・貝塚市)
- ・大沢の森、水無瀬水源の森(島本町)
- ・歌垣の森(能勢町)
- ・車作の森(茨木市)

<活動グループ名>

- 「ブナ愛樹クラブ」
- 「島本森のクラブ」
- 「能勢のギフチョウを守る会」
- 「車作里山倶楽部」

3 みどりのボランティアの育成、派遣

良好な自然環境や里山の保全及び緑化の推進を図るため、ボランティア経験者として継続的に活動するボランティア「みどりすと」を育成した。

また、緑化行事や保全活動において、木工クラフトの指導、活動地での作業に派遣した。

ボランティア活動に必要な用具、資材を整備すると共に、活動時の事故対策として、傷害賠償保険に加入した。

- ・平成18年度新規育成者数 10人 総数 1,089人 (平成19年3月末現在)
- ・クラフト指導者の派遣 (10市町村へ) 12件 派遣数 85人

4 青少年緑化活動推進事業

緑とのふれあい活動を通じて、次代を担う青少年が心豊かな社会人として育つよう、大阪府緑の少年団連盟に対して助成した。

5 「第12回森林と市民を結ぶ全国の集い」の開催

全国各地で森林保全活動を行うボランティア団体相互の交流と意見交換を行う「森林と市民を結ぶ全国の集い」を開催した。

主催：(社)国土緑化推進機構、第12回森林と市民を結ぶ全国の集い実行委員会、大阪 山に親しみ森づくりを推進する実行委員会、大阪府

開催テーマ：みんなが創る森づくり

開催日：平成18年11月11日(土)～12日(日)

内容：11日(土)シンポジウムとパネルディスカッション、交流会

基調講演「森と共に生きる社会をめざして」安田喜憲教授

12日(日)・フィールドワーク(5カ所)

大阪、奈良の特色ある活動地への参加と意見交換

・分科会

企業等との連携による森づくり、森林環境教育、

安全な森づくりなどをテーマにした分科会の開催

参加者数：678人

6 みどりのボランティア活動ネットワーク化事業

上記の「森林と市民を結ぶ全国の集い」を契機に、森林保全、自然保護、緑化等を進めるボランティア団体の活動内容等を当協会のホームページに掲載し、広く府民に紹介するとともに、各団体との情報の共有化を図り、みどりのボランティア活動の情報センターとなるよう努めた。

Ⅲ. 普及啓発事業

自然環境の保全と緑化の推進についての認識を深め、トラスト運動への積極的な参加を促進するため、大阪府の「木になる夢銀行事業」の銀行業務を受託すると共に、当協会事業地を活用した自然観察会などの普及啓発事業を行った。

1 木になる夢銀行事業

子供たちがドングリ拾いという遊びを通じて、緑化や自然環境に関心をもつよう、大阪府から「木になる夢銀行」事業の一部を受託し、地域の緑化の促進と緑に関する普及啓発を行った。

当協会は、銀行業務と普及啓発活動について、大阪府から受託して事業を実施すると共に、府の実施したドングリ学習会、育苗行事を支援した。

○仕組み

- ・ 総合調整 ……大阪府みどり・都市環境室
- ・ 銀行業務 ……（財）大阪みどりのトラスト協会
(データ集計、通帳発行、広報等普及啓発)
- ・ 預入窓口 ……大阪府みどり・都市環境室、各農と緑の総合事務所、協力市町村、（財）大阪みどりのトラスト協会
- ・ 苗木の養成 ……大阪府立食とみどりの総合技術センター、大阪府みどり公社

○事業実施

- ・ チラシ、通帳、普及啓発用パンフレット等資材の製作及び配布
- ・ 当協会のホームページで、「ドングリリン通信」を年3回発行
- ・ 銀行の活動実績

銀行窓口数：52 カ所

通帳発行数：3,045 冊（累計発行数 22,666 冊）

預け入れ数：約 170 万個

- ・ 苗木配布本数：10,347 本（払戻し 1,201 本、提供苗木 9,146 本）

2 普及啓発のためのイベントの開催

自然観察会などの実施により自然に触れ、楽しみ、学ぶ体験を通じて自然環境の大切さを啓発した。併せて、当協会事業の理解及び森林保全活動への市民の参加と支援を求めた。（再掲）

- | | | | |
|----------------|-------|----------|-----|
| ・ 歌垣の森ギフチョウ観察会 | 平成18年 | 4月16日（日） | 24名 |
| ・ 歌垣の森ギフチョウ卵調査 | 平成18年 | 4月29日（土） | 27名 |

・三草山ゼフィルス観察会	平成18年 6月18日(日)	77名
・車作の森キツネノカミソリ観察会	平成18年 8月12日(土)	88名
	8月14日(月)	32名
・ブナ林自然観察ハイキング	平成18年 10月21日(土)	65名
・三草山ゼフィルス卵調査	平成18年 11月13日(月)	19名
・ブナ造林技術研修会	平成19年 3月21日(水・祝)	88名

その他、緑の募金運動を通じて緑化啓発や自然環境・里山の保全等について啓発活動を行った。

3 情報誌等の発行

会員に協会の活動状況や自然に関する情報を提供するため、会報「みどりのトラスト」を年4回(6, 9, 12, 3月)発行した。

会報第52号～55号 計 54,000部 (13,500部/回)

4 会員の募集

当協会の保全活動や緑化関係各種イベント、会報・パンフレットの配付等を通じて会員の拡大を図った。

- ・新規会員登録者数 個人 134人、法人 2団体
(平成18年度会員数 個人 1,127人、法人 50団体)

5 専門委員会の開催

協会の事業実施に当たり、専門的知識を要する事項について助言を得るため次の専門委員会を開催した。

- ・普及啓発委員会 4回
会報「みどりのトラスト」の編集および緑の募金のTVCMやその他広報及び普及啓発活動について

IV. 緑の募金運動

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき「緑の募金」運動を展開し、市街地の緑化の推進、森林の整備、緑づくりの活動支援等に努めた。

運動を進めるにあたっては、幅広い参加による府民運動として実施するため、青少年団体、経済団体、企業、市民団体等の協力を得て実施した。

1 募金活動

(1) 募金資材の整備

募金活動を効果的に実施するため、緑の羽根、募金箱、PRポスターなどの資材を整備し、募金実施団体に配付した。

18年度は秋季の募金活動を盛り上げるため、ピンバッジのデザインの変更や携帯ストラップの配布を新たに試みた。

- ・緑の羽根 1,050,000本
- ・募金バッジ等
 - 春季：クスノキピンバッジ 17,000 個
 - 秋季：ドングリリンピンバッジ 4,000 個
 - ドングリリンストラップ 4,000 個
- ・募金箱、タスキ、ポスター等

(2) 募金活動の推進

(ア) 集中取り組み期間

平成18年4月1日から 5月31日まで（春季）

平成18年9月1日から 10月31日まで（秋季）

平成19年3月1日から 3月31日まで（春季）

(イ) 募金の実施

- ・街頭募金、学校募金、職場募金、家庭募金、企業募金等により行った。
- ・実施については、ボーイスカウト、ガールスカウト、緑の少年団などの青少年団体や地域婦人団体などによる街頭募金協力をはじめとし、企業や店舗の他、公共施設等に募金箱を設置して募金活動を実施した。

(ウ) 募金運動のPR

各報道機関に緑の募金運動の周知・協力を要請し、4月23日にはNHKニュース番組においてアナウンサーの緑の羽根着用の協力を得た。

また、大阪府広報、市町村広報でのPR、協力企業の店舗や大阪モノレール各駅でのポスター掲示等を行うと共に、街頭募金キャンペーンを実施した。

<街頭募金運動キャンペーン>

各団体の協力を得て街頭募金キャンペーンを次のとおり実施した。

区分	協力団体	実施日	場 所
春季	緑の少年団「いちょう」	4/9	阪急「梅田駅」構内カン広場
	緑の少年団「いちょう」	4/15	なんばパークス
	大阪市地域女性団体協議会	4/25	近鉄「阿部野橋駅」構内
	ガールスカウト大阪第11、14団	4/16	全国都市緑化おおさかフェア
	ボーイスカウト大阪第92、140団	4/30	同 上
	ボーイスカウト大阪第131団	4/14	同 上
	ミナミ活性化委員会	4/11	戎橋サミー前
	緑の少年団「いちょう」	7/16	第5回漁庭の海づくり大会
秋季	緑の少年団「いちょう」	9/3	なんばパークス
	同 上	9/9	同 上
	ガールスカウト大阪第55団	9/10	同 上
	ガールスカウト大阪第48, 65, 75団	9/10	イオン大日ショッピングセンター植樹式典
	ボランティアグループ「笹刈り隊」	9/23, 24	花の文化園

その他、大阪府植樹祭、市町村緑化行事等において、PRコーナーを設けると共に募金を呼びかけた。

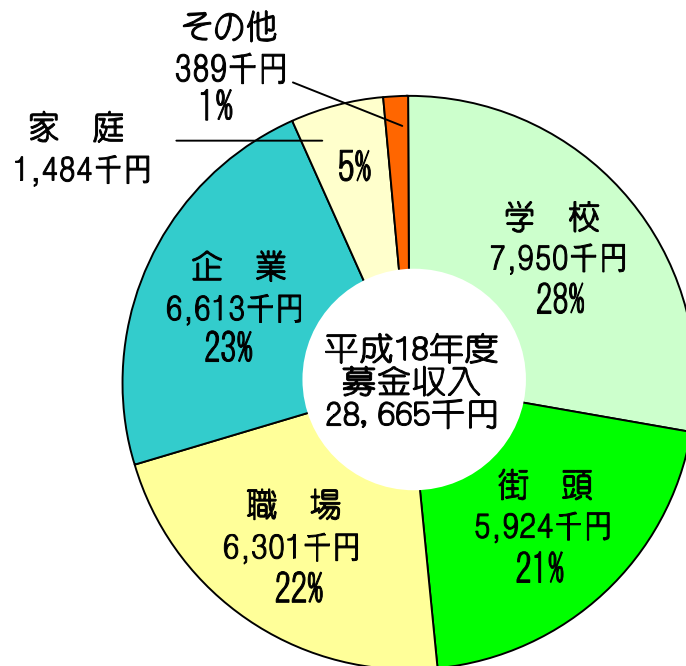
(3) 募金実績

(ア) 平成18年度の募金総額は **28,665,310 円**、件数は 1,990 件の実績となり、平成17年度に比べ、1,460,416 円、412 件の増となった。

(イ) 種類別募金額の実績は、次のグラフのとおりである。

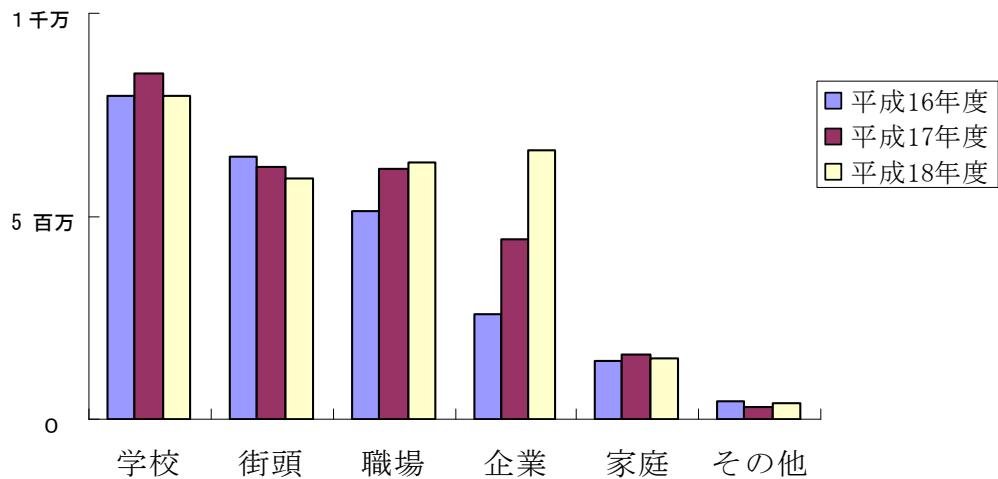
- ・学校、街頭募金は少子化の影響もあると考えられ、前年度に比べ減少している。
- ・職場募金、企業募金は前年度に比べ増加している。
- ・企業募金増加の大きな一因として、自動販売機を介した緑の募金の設置台数が増加しているとともに、年度末に 1,000,000 円の募金が 2 社あった。

【平成18年度 種類別募金額】



※募金種類別の詳細は資料-3の「平成18年度「緑の募金」協力団体実績」を参照

【過去3年間の種類別募金額の推移】



2 緑の募金事業の実施

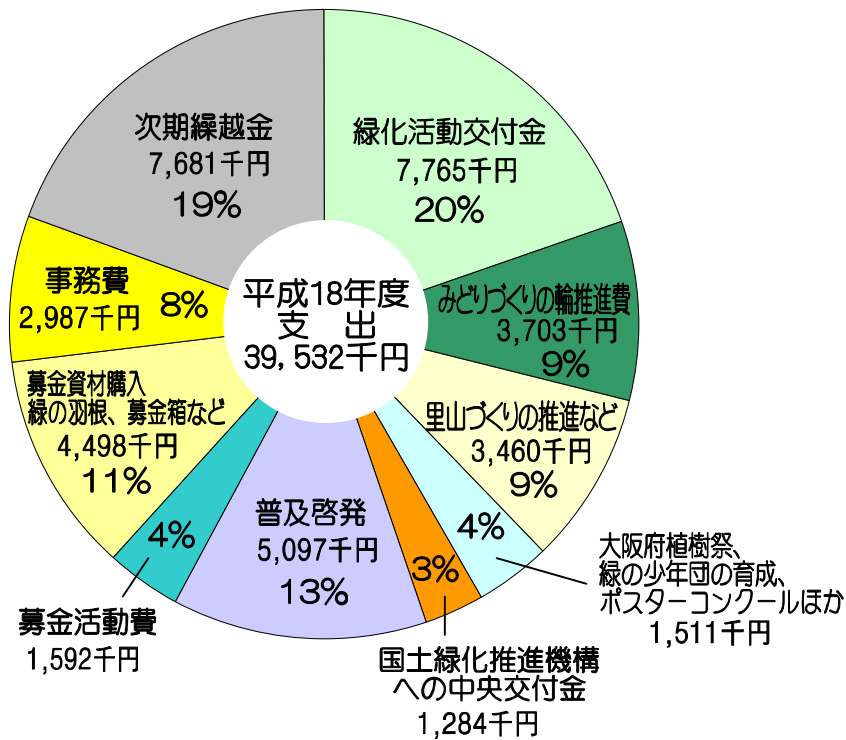
(1) 緑の募金事業支出

平成18年度にあたっては次のグラフのとおり事業を実施した。

なお、平成17年度からの繰越金の一部を、みどりづくりの輪の推進費及び里山づくり推進費に充当し、両事業の拡充を図った。

また、補正予算後に多額の寄付があったため、次期繰越金は 7,681,657 円となった。

【 平成18年度緑の募金事業別支出割合 】



※支出額には国土緑化推進機構 TVCM 補助金、TVCM 各府県負担金、利息収入、次期繰越金を含む

(2) みどりづくりの輪の拡大と森林の整備

(ア) みどりづくりの輪の推進

府民運動により、市街地の緑化を推進するとともに、森林の整備促進を図るため、NPOやボランティアグループ、緑の少年団、市町村緑化団体等が行う緑化活動等に支援を行った。

支援内容	平成18年度 3,703千円	平成17年度 1,962千円
森林、里山の整備	9カ所	5カ所
学校ビオトープづくり	8カ所	3カ所
市街地緑化	3カ所	2カ所
合計	20カ所	10カ所

※助成の詳細は、資料-4「平成18年度みどりづくりの輪活動支援事業一覧」を参照

(イ) 里山づくりの推進

多様な生きものの生育環境の確保や良好な森林景観を創出するため、荒廃した人工林や雑木林を再生し、森林の多様な役割を發揮できるよう、ボランティアの参加による保全活動を行った。

また、地域の要望に応え、府内に生育する貴重な樹木の保全事業を実施した。

- ・保全活動 泉南市「堀河の森」
能勢町「三草山ゼフィルスの森」
「地黄湿地」
- ・樹木保存 泉南市「男神社」（ムクロジ樹勢回復）

(ウ) 「こどもの森のくにづくり」(自然環境学習支援)の推進

青少年が森の中での体験を通じて、森の良さや自然の大切さを理解する助けとなるよう自然体験行事を実施した。

- ・おもいっきり自然体験「いずみの森」
いずみ市民生活協同組合や協力団体と共に、里山保全体験プログラム、自然観察プログラム等を通じて、自然に親しみながら親と子供及び三世代にわたる家族の交流が図れるようにした。
場 所：泉佐野市いずみの森
時 期：平成18年10月14日（土）
内 容：里山保全体験、いずみの森ふしぎ発見ツアー、クラフト作り、椎茸菌の植え付け体験等
参加者：500名（生協組合員、一般市民）

(エ) 緑の少年団の育成

大阪府内の緑の少年団の育成とその活動の充実を図るため、大阪府緑の少年団連盟の行う事業に助成した。

- ・緑の少年団 10団体 383名（平成19年3月31日現在）が各地域で行う緑化活動、街路の清掃、森林保全活動や学習会に必要な経費を助成した。
- ・緑の少年団全国大会への参加助成
日時：平成18年7月28日（金）～7月30日（日）
場所：滋賀県野州市
- ・大阪府緑の少年団交流集会の開催
日時：平成18年8月26日（土）～27日（日）
場所：大阪府立少年自然の家
参加団：岬町緑の少年団、貝塚市緑の少年団、羽曳野市緑の少年団、
緑の少年団いちよう（八尾市）

(3) 緑化の活動と普及啓発

(ア) 募金団体を通しての地域緑化の推進

地域や学校等の緑化を推進するため、募金額の一部を緑化推進事業等交付金として募金団体に交付し、植樹、花壇の整備、樹木の手入れ等の緑化活動を支援した。

- ・ 交付団体数 910 件（平成17年度 933 件）
- ・ 交付金額 7,765,066 円（平成17年度 7,515,013 円）

※緑化推進事業等交付金についての詳細は資料－5「平成18年度「緑化事業等交付金」交付状況一覧表」を参照

(イ) 第54回大阪府植樹祭の開催

と き：平成18年4月29日（祝・土）

と ころ：大東市 住道駅南公園（末広公園）

開催標語：「街にみどりを 窓辺に花を」

主 催：大阪府、大東市、（財）大阪みどりのトラスト協会

行事内容：緑化功労者及び国土緑化ポスターコンクール入選者の表彰、植樹、展示、クラフト等

<緑化功労者表彰>

緑化に功労のある団体を大阪みどりのトラスト協会緑化功労者として表彰した。

大東市立北条小学校

東大阪市立俊徳中学校

日本ボーイスカウト島本第1団

日本ボーイスカウト大阪第149団

社団法人ガールスカウト日本連盟大阪府第12団

<国土緑化ポスターコンクール入選者表彰>

次の（ウ）の18年用ポスターコンクールの入選者を表彰した。

(ウ) 国土緑化運動ポスターコンクールの実施

児童、生徒の自然や緑への関心を高めるために、府内小・中・高等学校の協力を得て19年用ポスターコンクールを行い、優秀作品を国土緑化推進機構が行う全国コンクールに応募した。入賞者については、第55回大阪府植樹祭（平成19年4月開催）において表彰すると共に作品展示も行う。

- ・ 参加者数 1,229名、応募者数 235名

- うち入賞（トラスト協会賞）22点（詳細は別添資料（会報））
- ・ 国土緑化推進機構理事長賞 入選 1 名

（エ）中央交付金

（社）国土緑化推進機構が行う全国規模での緑化事業に要する経費を交付した。

- ・ 中央交付金 1,284,000 円

（オ）普及啓発活動の拡充

- ・ 近畿 2 府 4 県及び徳島県緑化推進委員会と共同で（社）農林放送事業団に委託し、MBSテレビで4月に17回のスポットテレビCMを実施した。
- ・ 「地球温暖化防止キャンペーン」として、つる植物による「緑のカーテン」普及活動のため、つる植物の種子を 27,500 袋配布した。
- ・ 「緑の募金」ステッカーを作成し、4月に南海電車全線、1 車両につき 1 車体 1 枚を窓に貼り、緑の募金の普及啓発に努めた。
- ・ そのほか、チラシの作成、大阪商工会議所機関誌に緑の募金の呼びかけを行う記事を掲載した。

3 緑化推進運営協議会の開催

緑の募金運動を展開するため、次のとおり緑化推進運営協議会を開催し、活動計画、収支予算等を審議した。

- ・ 平成18年 6 月 16 日（金） 平成17年度事業状況報告、収支決算
- ・ 平成19年 2 月 8 日（木） 平成18年度収支補正予算
平成19年度事業計画、収支予算

V. トラスト基金の造成

和泉葛城山のブナ林とこれを取り巻く森林を一体的に保全するための「ブナの森ト
ラスト基金」及び能勢町三草山における放置された農用林を再生し、ゼフィルス
をはじめ森の生き物のすみかを維持する等のための「ゼフィルスの森等里山トラス
ト基金」の造成に努めた。

○ブナの森トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	101 件	578,146 円
(平成19年3月末現在 累計)	3,287件	77,098,466 円)

○ゼフィルスの森等里山トラスト基金

・基金寄附件数及び寄附金額	44 件	305,000 円
(平成19年3月末現在 累計)	1,715件	45,162,868 円)